

明石市の子ども・子育てを取り巻く状況

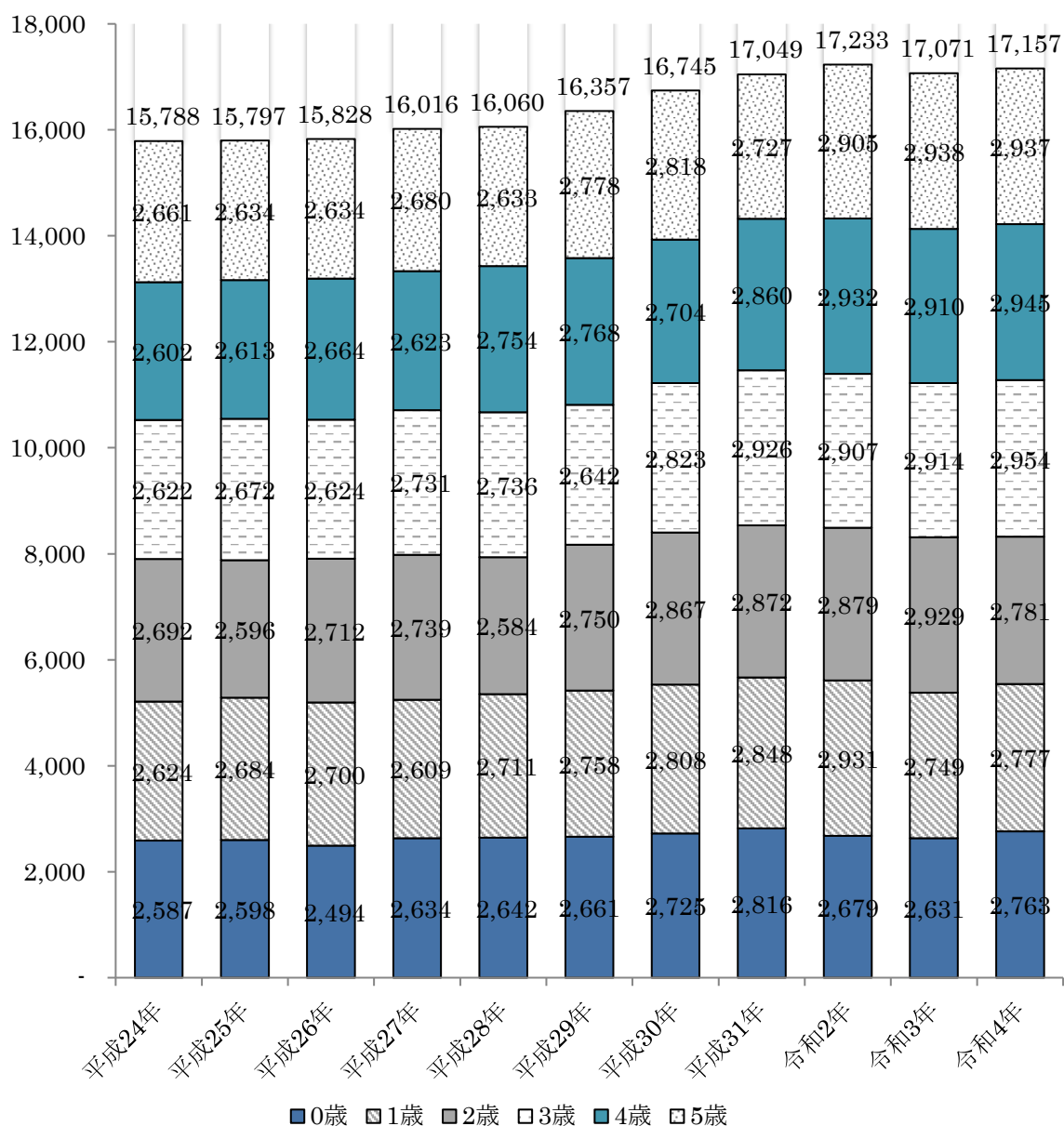
明石市の子どもをめぐる状況について、「第 2 章 子ども・子育てを取り巻く現状と課題」から抽出し、国勢調査等による直近のデータを追加しました。

1 明石市の子どもをめぐる状況

(1) 子どもの人口の推移

本市の 0 歳から 5 歳の人口は 2012 年（平成 24 年）以降、全体として増加が続き、2019 年（平成 31 年）には 17,000 人を超えました。その後、2020 年（令和 2 年）以降の直近 3 か年は、ほぼ横ばいの推移となっています。

(人)



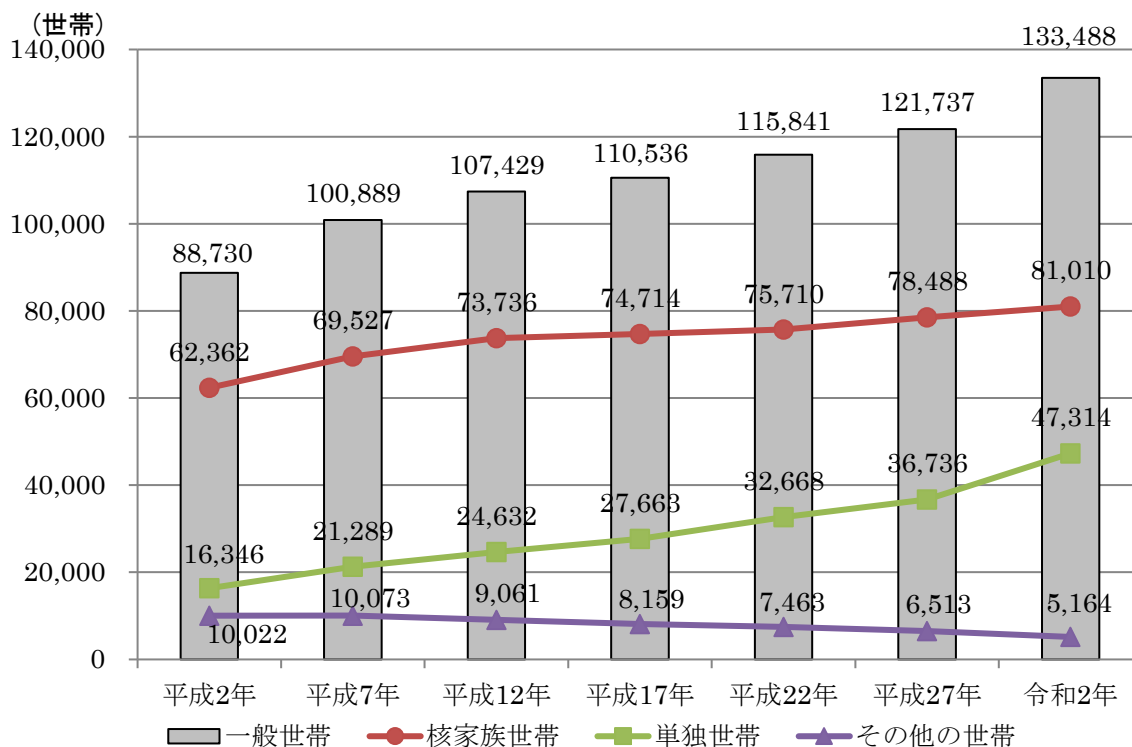
資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

(2) 世帯構成の状況

本市の世帯数は増加傾向にあり、一般世帯における世帯数の推移は、核家族世帯及び単独世帯の増加傾向が続いています。

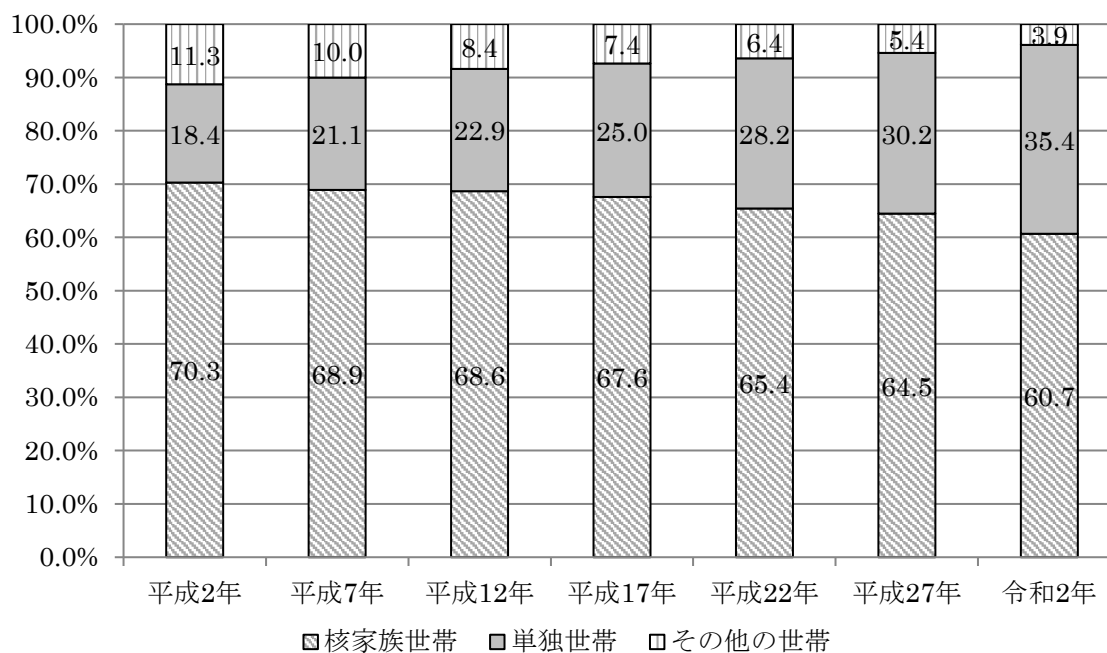
また、世帯構成の全体割合では、単独世帯の占める割合の増加が顕著です。

【世帯数の推移】



資料：国勢調査

【世帯構成の推移】

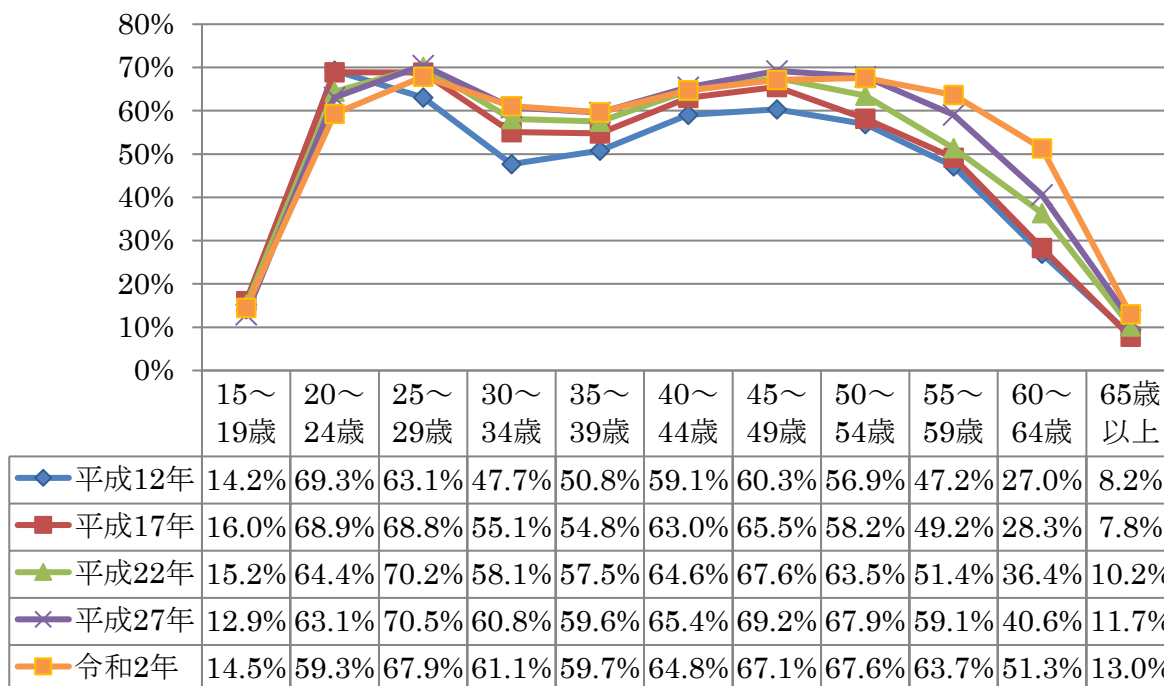


資料：国勢調査

(3) 女性の労働状況

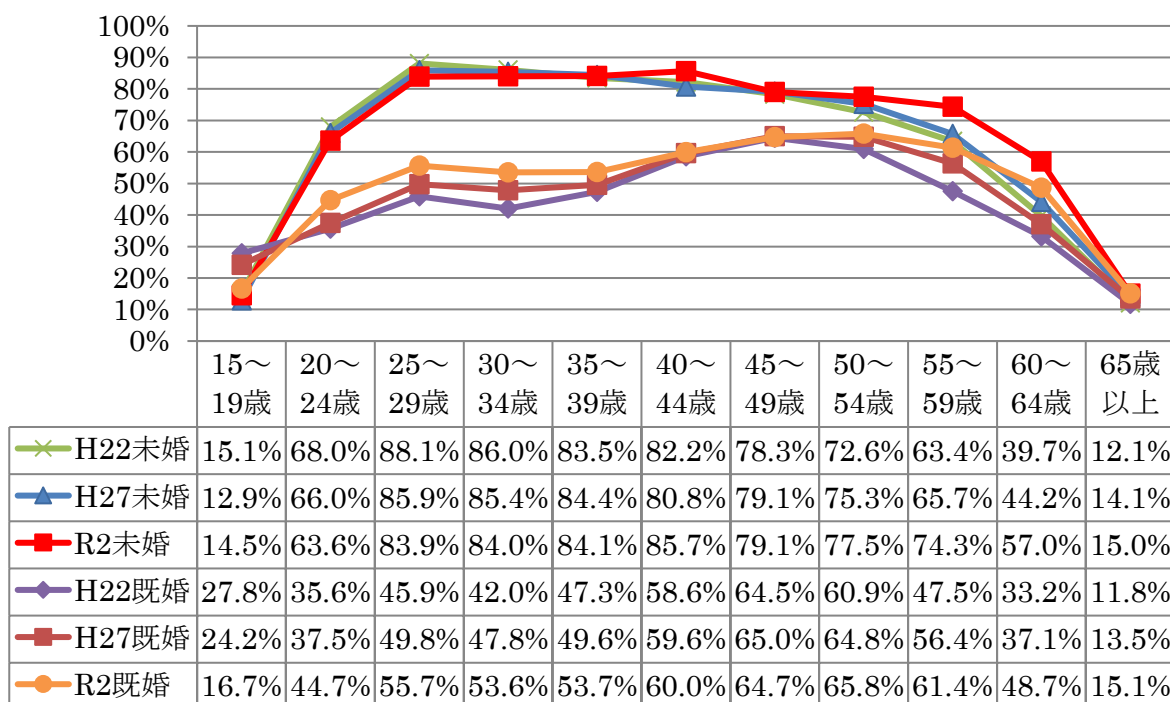
女性の年齢別労働力率は、結婚・出産期に当たる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するというM字カーブを描いています。30～44歳の労働力率が全体的に上昇しており、年々M字カーブが扁平化される傾向にあります。また、既婚女性の労働力率についても上昇傾向が続いています。

【女性の年齢別労働力率】



資料：国勢調査

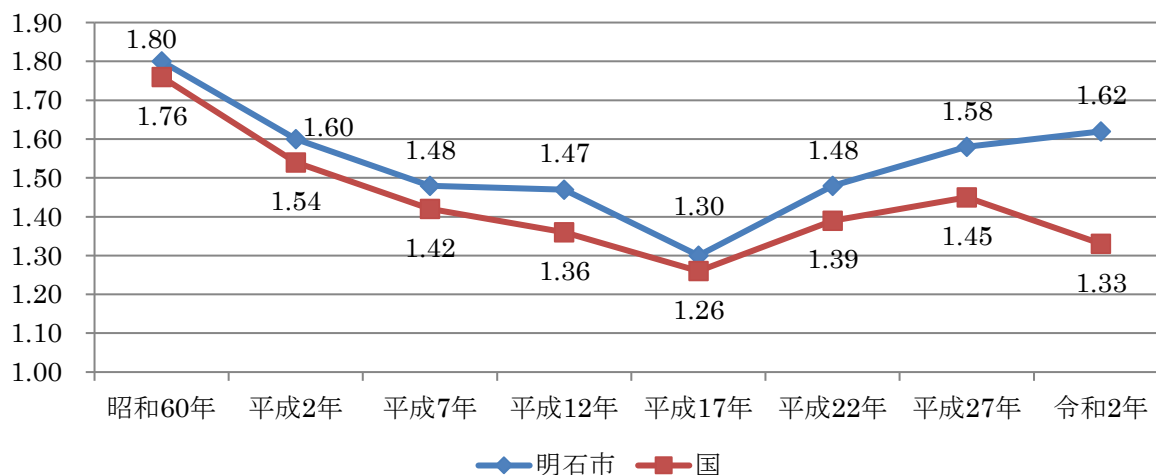
【女性の未婚・既婚別労働力率（平成22年・27年・令和2年）】



資料：国勢調査

(4) 合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が、仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの平均の子どもの数であり、この数字は一般に少子化問題との関係で用いられ、数値が2.08を下回ると人口が減少に転じるといわれています。本市の合計特殊出生率は、国を上回って推移しており、国が減少に転じた令和2年においても、上昇傾向を維持しています。

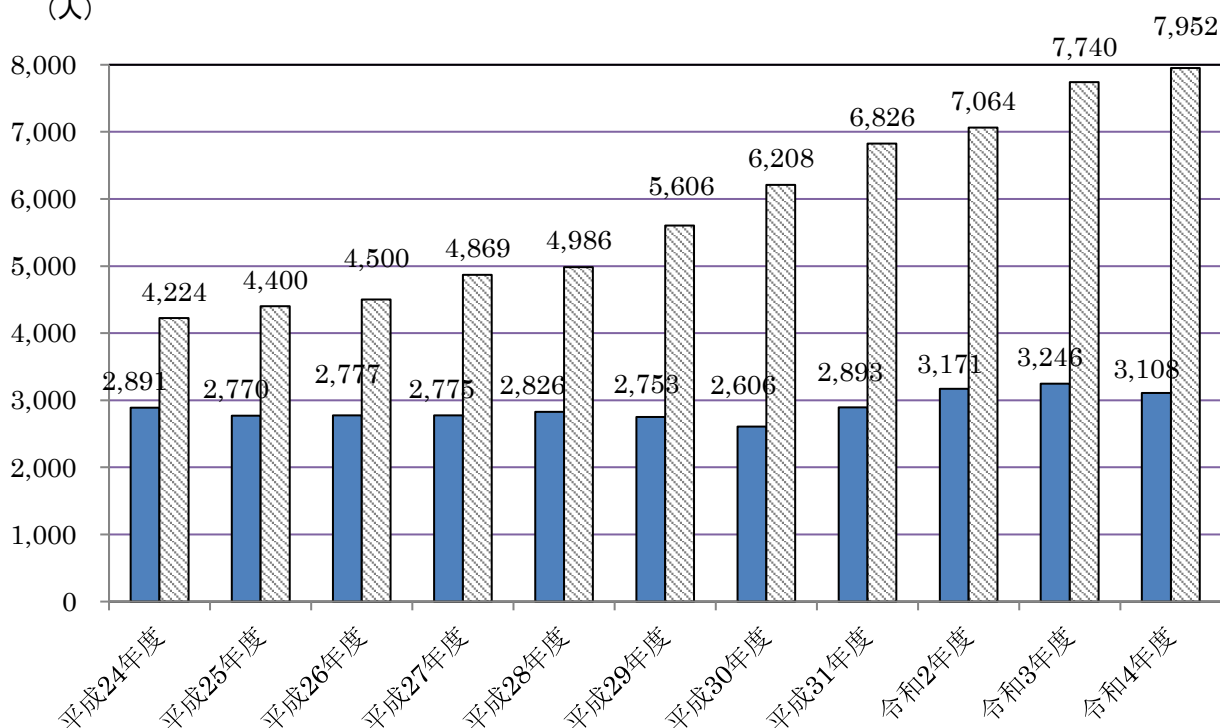


資料：国勢調査

(5) 就学前児童の幼稚園、保育所・認定こども園入所状況

2016年（平成28年）度以降、幼稚園の入所者数は減少傾向にありましたが、3歳児保育の拡大により、2019年（平成31年）度以降は増加傾向となっています。保育所・認定こども園は一貫して増加が続いており、特に2017年（平成29年）度からの5年間で約2,300人、2012年（平成24年）度からの10年間では約3,700人増加し、約1.9倍になっています。

(人)

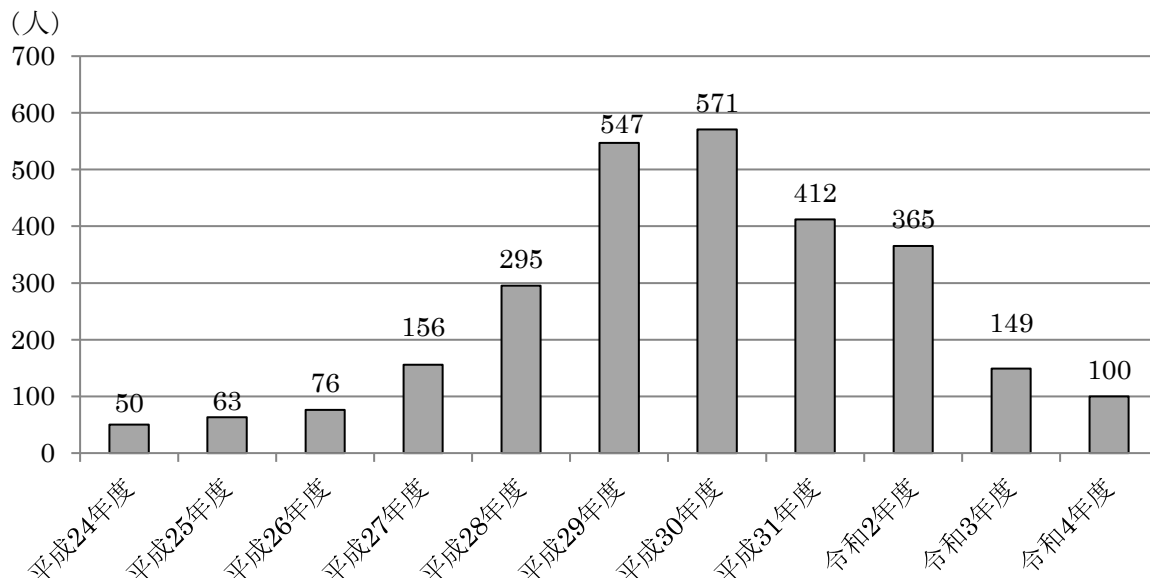


■ 公私幼稚園・認定こども園（幼稚園部分1号） □ 公私保育所・認定こども園（保育所部分2・3号）

資料：こども育成室

(6) 保育所待機児童の推移

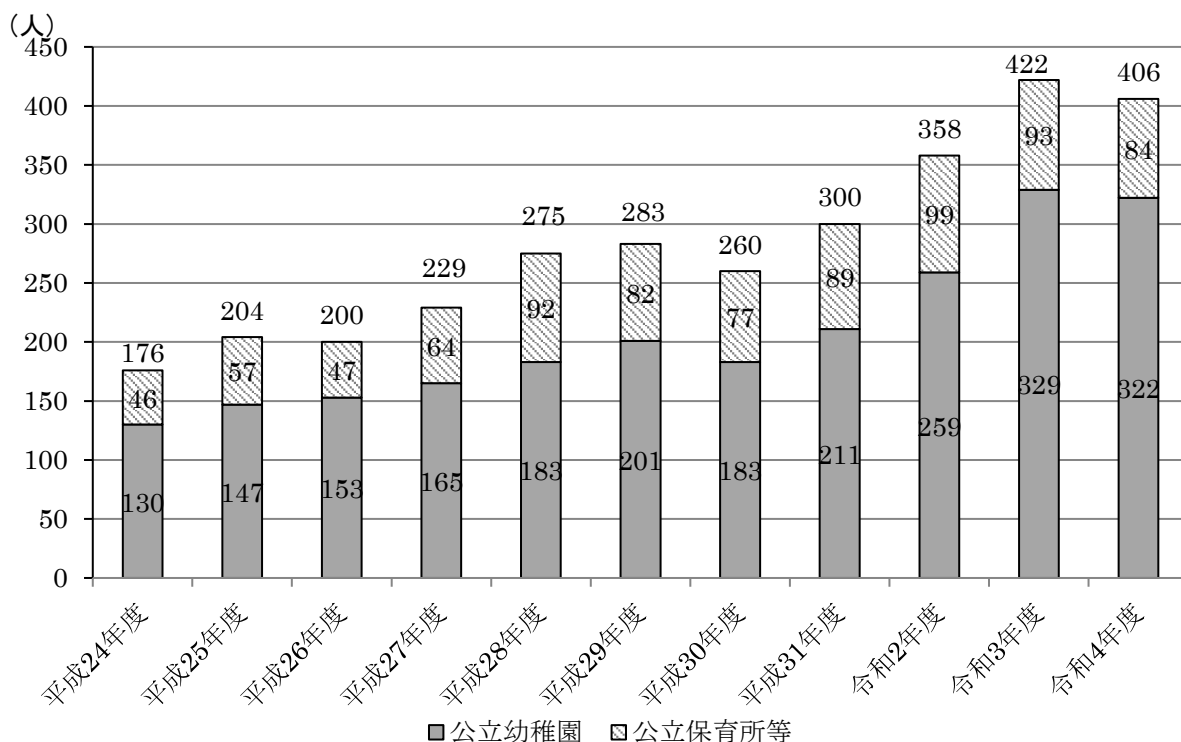
本市の保育所待機児童数は、2018年（平成30年）度までは毎年増加していましたが、2019年（平成31年）度に減少に転じ、2022年（令和4年）度は100人となっています。



資料：待機児童緊急対策室（各年4月1日現在）

(7) 公立施設における特別な支援が必要な子どもの推移

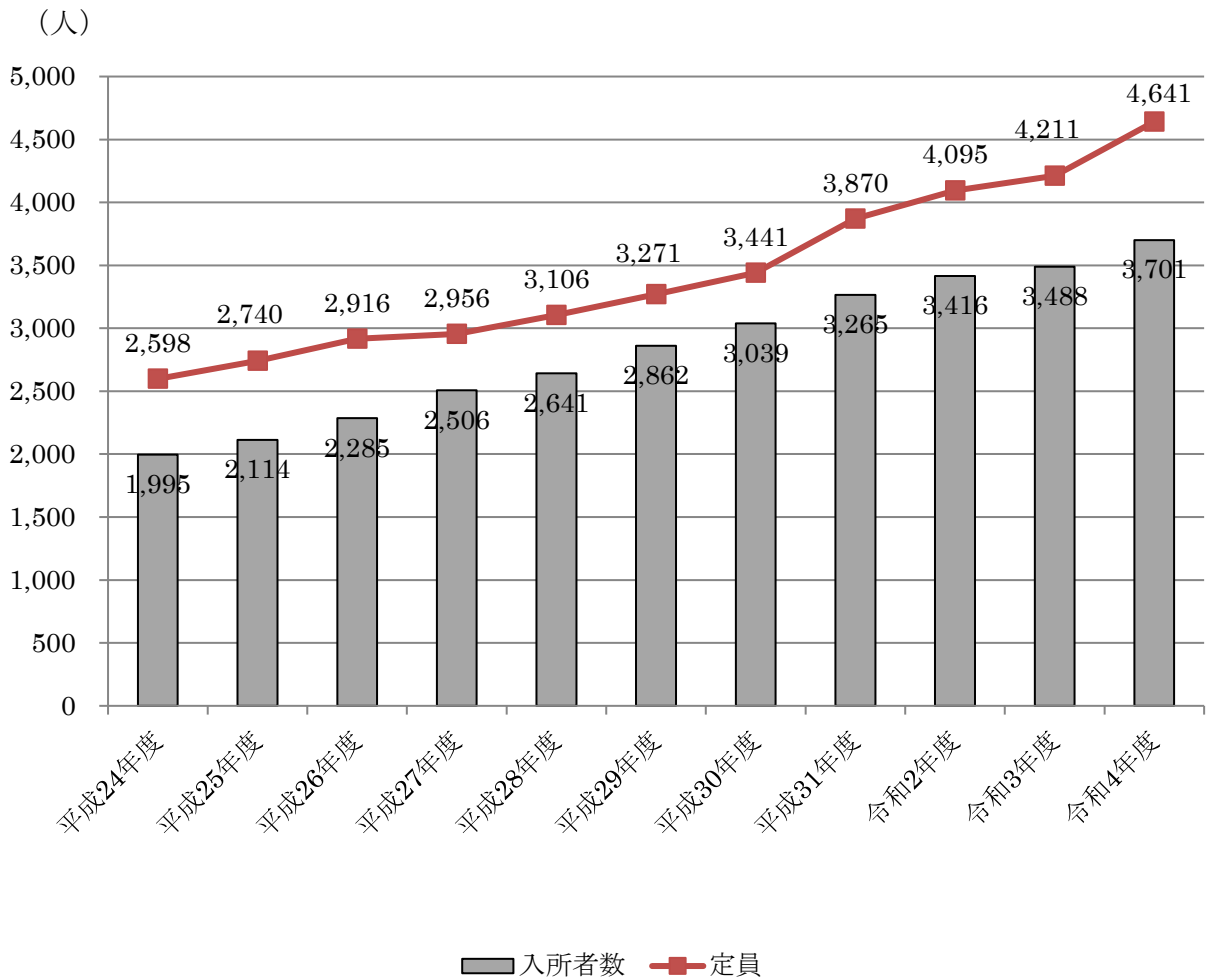
本市の特別な支援が必要な子どもの人数は、幼稚園、保育所とも増加傾向にあります。特に幼稚園では、ここ数年で急激な増加がみられます。



資料：こども育成室（各年4月1日現在）

(8) 放課後児童クラブの状況

放課後児童クラブの入所者数は年々増加しており、2022年（令和4年）度には、3,701人となっています。



資料：こども育成室（各年4月1日現在）